

教会はミサと言われる聖体の秘跡や他の六つの秘跡を始め、様々な形の典礼を通して、信者の皆さんの信仰を深め、また、神様からの恵みをもっと豊かに頂くことができるように努めています。例えば、十字架の道行きやロザリオの祈り、或いは、毎日決まっている時間にささげる教会の祈りなども、典礼行為として認められます。そういった種々の典礼を通して、わたしたちは神様ともっと親しくなり、神様との人格的な出会いの機会も設けることができるのです。

そんな豊かな典礼の中に、「聖体賛美式」というものがあり、韓国の神学校では、月初めの木曜日の夜、約一時間半をかけてこの儀式を行います。この典礼の間、司祭は祭壇の上にオステンソリウムという特別な聖具を置き、そこにご聖体を入れて信者の皆さんがその聖体を仰ぎ見る(敬拝する)ことができるようにします。実は、この新型コロナウイルスが始まる前は、わたしたちの教会も、毎月第一木曜日の夜、聖体賛美式を行っていました。勿論、参列者は少なかったですが、一時間の間、イエス様の御体であるご聖体をじっくりと見つめながら、神様に感謝と賛美の祈りをささげ、また、新しい月をイエス様と共に始めることができました。この典礼の恵みは、何ととっても「ご聖体との直接対面」だと言えます。使徒パウロが讃えているように、イエス様は「目に見える形で現れた神様ご自身」であり、更に、ご聖体の形でわたしたちの永遠の命の糧となってくさることで、そのご聖体をじっくりと仰ぎ見ることで、それが聖体賛美式の恵みの一つで、今日はそういう観点から御言葉を味わいたいと思います。

今日の福音で、イエス様は重い皮膚病を患っていた十人の人を癒してくださいました。彼らはサマリアとガリラヤの間にある村からやってきて、イエス様に出会ったようです。そして、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、『イエス様、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください。』と言いました。そこで、イエス様は彼らに、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい。」と言われたのです。彼らはその指示に従うと、途中でみんなが癒されました。ところが、自分が癒されたことに気づいたある一人のサマリア人が、他の九人から離れてイエス様のところに戻って来て、その足元にひれ伏して感謝しました。そこで、イエス様は「清くされたのは十人ではなかったか。他の九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」と言われ、それからそのサマリア人に「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」と言って彼を励まされました。

彼らはきっと、その重い皮膚病を患ってから自分たちの居場所をも失い、愛する人たちとも別れなければならなかったでしょう。そして、同じ状況に陥っていた人たちは、国籍や民族、宗教や文化を問わず、みんなで集まって過ごしてきたに違いありません。イエス様が自分たちのところに来られた時、彼らはほかの健康な人たちより先に、イエス様を出迎えに来ました。しかし、自分たちのような惨めな体ではイエス様に近寄ることができなかったので、彼らは遠くの方で立ち止まったまま、声を張り上げてイエス様の憐れみを求めたのです。そこで、イエス様も声を張り上げて「祭司たちのところに行って、体を見せなさい。」と応えてくださったに違いあり

ません。その姿すがたを想像そうぞうしてみたら、イエス様さまの憐れみあわれみの深さふかが分かるわか気がしますき。
イエス様さまは彼らかれの心こころの痛みいたをよく知しっておられ、彼らかれと同じようおなに大声おおごえで答こたえてく
ださったのでしょう。こうして、彼らかれは司祭しさいたちのところいに行く途中とちゆうで癒いやされました
が、それにき気づいたひとり一人じんのサマリア人ふたは、再さまびイエス様さまのところもどに戻きって来て、イ
エス様さまに感謝かんしゃしたのです。そこで、イエス様さまは他ほかの九人きゆうにんについてため息いきま混じりにお
っしかったからといって、それであきゆうにんとの九人びようきの病ふた気が再わるび悪わるくなったはずはありま
せん。むしろ、イエス様さまのその話はなしは、あの癒いやされたサマリア人じんの信仰しんこうを、信仰しんこう
あるすべての人ひとが学まなぶべき模範もはんとして誉ほめてくださったわけです。

最初さいしよ、その十人じゆうにんの人ひとたちは、どれほど悩なやみながらイエス様さまを出迎でむかえたでしようか。
彼らかれは気落きおちしていてもイエス様さまには近寄ちかよれず、遠とおくの方ほうでイエス様さまの憐れみあわれみを求め
ました。その様子ようすをらんご覧らんになったイエス様さまは、その悩なやみと苦くるしみをじぶんご自分のことことのよ
うに受うけ止とめてくださったのです。しかし、病びようき気かいほうから解放じゆうにんされた十人きゆうにんのうちきゆうにんの九人
は、イエス様さまのところかんしゃに感謝もどに戻ひとりらず、ただ一人がいこくじんの外国人じんのサマリア人もどだけが戻もどって
きたわけです。イエス様さまはその九人きゆうにんについて残念ざんねんな気持きもちをあらわを表あらわしましたが、このサ
マリア人じんはイエス様さまに感謝かんしゃし、また、仰あおぎ見みることができるよう、彼かれに特別とくべつな恵めぐみを
授さづけてくださったでしよう。イエス様さまはご自分じぶんの命いのちをささげ、わたしたちのために
清きよい捧ささげものとななってくださいました。そのお陰かげでわたしたちは清きよめられ、更さらに、わ
たしたちはイエス様さまご自身じしんの御体おんからだであるご聖体せいたいを通とおして、その恵めぐみに与あずかるようにな
ったのです。それを記念きねんするミサを大事だいじにし、また、ご聖体せいたいへの信心しんじんをもっと深ふかめ
るのはわたしたちの当然とうぜんの務つとめでしょう。イエス様さまはいつもわたしたちと一緒いっしょにおら

れますが、だからと^い言^って、ご^{せい}体^{たい}の^か形^{たち}のイエス^{さま}様との^で出^あ会^いをないがしろにする
のは、^の望^ぞましくないと^{おも}います。これからもご^{せい}体^{たい}の^か形^{たち}のイエス^{さま}様を^あ仰^おぎ^み見^つつ、
わたしたちの^{しん}信^{こう}をもっと^ふ深^かめて^ま参^まりましょ^う。